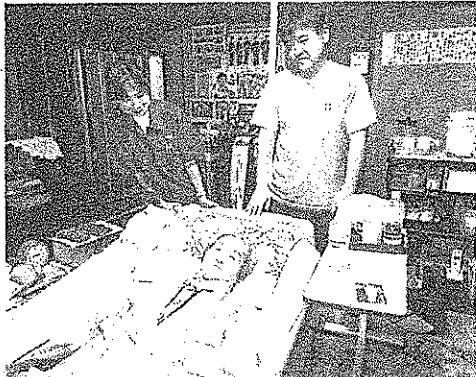


# 介護「生活援助」見直し不安

## 「離職ゼロ」目標 同時に給付抑制検討



「元気が出るのは、みんなの助けがあるから」と話す母（手前）を見守る郡山雅也さん（右奥）と担当のケアマネジャー＝大阪市

大坂市の介護事業所で働く主任ケアマネジャーの沖真誠さん（56）は、毎日午後6時に職場を後にする。向かう先は兵庫県宝塚市の実家。認知症で要介護1の母（86）と、要支援2の父（88）が暮りしている。「タマネギ切ってくれる？」。料理好きの母に声をかけられて笑顔になつた。夕食終え、母があわごちにしまつた衣類を探しだし、入浴を介助して、一日が終わる。翌朝は早起きして食事の準備や部屋の掃除など、朝まで実家に滞在する。夫婦が持つ大阪市の自宅へ帰るのは、週末の1泊2日だけだ。母は4月に一人で外出し、道路を歩くまでの間、母は偶然通りかかった。

大阪市の介護事業所で働く主任ケアマネジャーの沖真誠さん（56）は、毎日午後6時に職場を後にする。向かう先は兵庫県宝塚市の実家。認知症で要介護1の母（86）と、要支援2の父（88）が暮りしている。火を烧烤うとしてガスコンロを壊したこと。父は脳梗塞や糖尿病に加え、昨年末に手術をしており、母を世話をすることは負担が重い。

そんな沖さんの息抜きは、ヘルパーを利用し、週一度ヘルパーに掃除をしてもらうことだ。物忘れが多い母にヘルパーの目があるだけで、安心だという。介護保険制度の見直し論議は参院選後に本格化する。介護の必要度が比較的軽い要介護1、2の人のに対するサービスの縮小が焦点で、生活援助は保険の対象外になる可能性もある。介護の必要度が比較的高い要介護1、2の人に対するサービスの縮小が焦点で、生活援助は保険の対象外になる可能性もある。

安倍政権が「介護離職ゼロ」と同時に介護サービスの抑制を進めるのは、膨れ上がった介護保険にかかる費用を抑えるため。ヘルパーの援助、職場の理解、夫や子どもの協力。それから一つでも欠けると介護と仕事のバランスは崩れる」と沖さん。

## 家族「仕事辞めるしか」

年間10万人ほんのが介護を理由に仕事を辞める状況を改善しようと、安倍政権は「介護離職ゼロ」の目標を掲げる。一方、給付抑制を柱とする介護保険制度の見直し議論も始まり、年末には結論が示される。身近な家族の介護という課題が、参院選でも問われている。

### 2016 参院選

投票前に考える

りの世話をしたかった。た

だ、日々の生活は「介護よ  
り仕事優先」。頼みはヘル  
パーだ。

婚江泰保子・みずほ総合研究

一がいなければ仕事を辞めてしまふかもしれない」。こう考へて参院選前に考えておきたい。

大阪市内で要介護2の母親（76）と2人暮らしの郡山雅也さん（52）は、飲食店の店長だった2年前、自ら店長代理への格下げを願い出た。給料は3割減つたが、体調が悪化する母の身の回り

「給付の抑制が行われれば、ヘルパーの仕事を喪失することだ。働き方が変るしかない。働き方を変えるか、無理な仕事を辞めるしかないとも思つ」

「介護を使っている人のうち、要介護1の6割以上が、要介護2の5割以上が生活援助を利用。保険の対象外には影響は大きく、介護離職を誘発しかねない。高齢社会をよくする女性の会の櫻口恵子理事長らが共同代表を務める「介護離職のない社会をめざす会」は先月30日、公開質問書に年次にかけて段階的に市町

## 軽度者縮小 やむを得ず

メント学会副理事長、要介護1、2の人には手厚いケアが必要な認知症の人も少なくなく、専門性のあるヘルパーの関与は欠かせない。生活援助は生活的負担が重くなりすぎると、調理や掃除は原則保険外サービス任せ、低所得で費用を払えない場合などへの配慮策を別途設ければよいのではないか。介護と仕事の両立は、柔軟に見直すべきだ。支払いが大幅に増えれば、払えない人は利用を拒む。代わりを担う家族の負担が増えて、離職につながりかねない。早期にヘルパーが用を絶える。代わりを担う家族の負担が増えて、離職につながりかねない。早期にヘルパーが利用を拒む。ヘルパーにかかる費用は、1割の自己負担で月約1万円。「ヘルパーを頼めば、ヘルパーの仕事喪失も問題だ。」

「扶養を置いて、郡山さんが

政府は「給付の範囲や内容の適正化」を打ち出し、年次で5、6兆円だった総費用は、今年度当初予算で1兆10、4兆円と3倍に増えた。この間、65歳以上の被扶養者は8200円程度に達する見込みだ。

（森本美紀、友野翼世）

## 膨らむ費用 負担増

安倍政権が「介護離職ゼロ」と同時に介護サービスの抑制を進めることは、膨れあがる介護保険にかかる費用を抑えるため。

2011年から14円で1年増加。厚生労働省の試算によると、2020年になると6兆円だった総費用は、今後6年で約20兆円、65歳以上の保険料は8200円程度に達する見込みだ。

（森本美紀、友野翼世）

1/19  
朝日